



地域の魅力あふれる「いしがき」

4. 活力

本市の観光理念である「島（しま）ぬ美（かい）しゃ、心（きむ）美（かい）しゃ」を体現することが観光満足度を高め、観光地としての質の向上につながると考えます。国内外からのリピーターを創出するため、観光まちづくりを考える「場」として観光会議を開催し、「石垣市観光基本計画」を推進します。また、年間を通して観光イベントや新たな観光コンテンツ作りに取り組み、観光需要の底上げと交流人口の更なる増加を目指します。

平成28年度からスタートしている「島人（しまんちゅ）ぬ宝（たから）さがしプロジェクト」では、市民参加型で石垣の埋もれた魅力を再発見し、それらを磨き上げ、発信することで、日本最南端の音楽の島としてPRを行ってまいります。

石垣の星空を観光資源として定着させ、市街地において身近にその魅力を発信する場として、石垣港離島ターミナル内にプラネタリウムを導入した「美（ちゅら）ら星（ぼし）ゲート」を創出します。平成29年度は、実施設計を行い、施設整備に取り組んでまいります。

観光施設の再整備につきましては、平成29年度も引き続き玉取崎展望台及び底地海水浴場の施設の改修工事を実施し、魅力ある観光施設づくりに努め、観光客の満足度向上に努めてまいります。

スポーツツーリズムの推進につかま

イラランドの推進を図ってまいります。

森林環境保全整備につきましては、引き続き植林及び保育をすることにより、森林の諸条件に応じた単層林、複層林の整備をします。併せて、市街地用のための緑化木を始め、計画的な樹種生産を行うとともに、リュウキュウマツ等の島産材の公共施設等への活用を図ってまいります。

国営石垣島土地改良事業につきましては、平成26年度の事業着工後、石垣北部送水路パイプラインの整備など本格的に始動しております。農業用水の安定供給を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定を目指すため、新たに伊野田南地区の畑地かんがい施設の整備を図るとともに、引き続き久宇良地区、村中第2地区、開南地区、三川地区の畑地かんがい施設の再整備を行い、施設の機能回復を図ってまいります。

また、団体営伊野田南地区や県営星野地区などの新規地区にて順次事業が採択されるなど、これまで農業用水の手当てが無い地域において、かんがい施設やその条件整備を行い、地域特性を生かした農業生産性の維持・向上、農業経営の安定に資するよう取組を進めます。

畜産振興につきましては、県内外より優良な繁殖雌牛を導入することで、肉用牛生産農家及び農業生産法人の経営安定と、繁殖生産基盤の拡充・強化を図るため、引き続き、産肉能力の高い優良雌牛120頭を導入し、濃厚飼料費の補助や、飼養管理環境の向上と安定化を図る肉用牛害虫対策や家畜伝染病対策を実施してまいります。また、産肉能力に優

は、全国の離島の中学生が野球を通じて「島」と「島」の交流を図る「全国離島交流中学生野球大会」いわゆる「離島甲子園」を本市において開催します。また、グラウンド・ゴルフの全国大会を本市で初めて開催し、交流と親睦を図るとともに、石垣島の「元氣」「自然」「文化」「産物」を全国へ発信してまいります。現在、民間企業が事業主体となって、ゴルフ場を含むリゾート施設建設の計画が進められております。本施設は、市民の健康増進や余暇活動の充実はもとより、観光振興等にも資するなど総合的な観点から、本市に必要な施設として考えております。引き続き、関係法令に基づき、自然環境にも十分配慮しながら、その整備に向け必要な協力をしてまいります。

本市の特性・強みを活かし、ブランディングを図る取組も積極的に推進してまいります。市制施行70周年を記念して、本市の魅力ある風景・生物を取り入れたデザインの「ご当地ナンバープレート」を作成したところであり、市制施行記念日の本年7月10日から交付してまいります。

黒麹を始め、石垣島固有の材料を活用した新たな発酵調味料の開発を進めてきたところであり、まもなく商品化できる見込みとなっております。平成29年度は、全国の発酵食品・技術が集う「全国発酵食品サミット」への出展を行うなど、発酵ブランドの育成にも取り組んでまいります。

現在就航している石垣―香港直行便などの国際定期便を活用し、直接香港や台湾に向け、八重山の魅力ある様々な物産の輸出の拡大を促すため、引き続き山羊増殖改良推進貸付事業を実施してまいります。

水産業の振興につかましては、平成26年度から新たな石垣ブランドの開拓を目的に、スジアラ養殖実証試験を実施し、沖縄県三大高級魚の一つであるスジアラの陸上養殖が可能となりました。平成29年度は、陸上養殖場の基本・実施設計を行うとともに、ブランド化の可能性調査を実施し、今後、民間と連携した施設整備を目指してまいります。

水産加工施設においては、モズクの処理ラインを増設したことにより、今後、生産量の増加や新規養殖漁業者の参入が期待でき、6次産業化の更なる推進を図ってまいります。

経年劣化による機能低下が懸念されている伊野田漁港海岸、船越漁港海岸施設につきましては、今後の施設保全のあり方などの長寿命化計画の策定に向けた現況調査を実施してまいります。また、登野城漁港の安心安全な利用と就労環境向上のため、引き続き物揚場と護岸の改良整備を図ってまいります。

豊かな風土の中で育つ「いしがき」

5. はぐくむ

石垣の豊かな風土の中で、人間性豊かな人材の育成を目指す教育を推進してまいります。

本市における児童・生徒の学力水準は、近年、小学校は全国水準を維持しており、中学校も全国との差を平成26年以降全ての教科で

図るため、石垣空港の税関空港指定に向けて取り組んでまいります。

現市役所庁舎移転後の跡地の活用につきましては、これまで市民、経済団体、地域団体等から幅広く意見や要望を聞いてきました。平成29年度は、中心市街地・周辺地区一帯の更なるにぎわいを創出する観点から、現庁舎等跡地に求められる機能や課題を整理するとともに、その利用の考え方、方向性及び事業のあり方を定め、整備に向けた計画の策定に取り組んでまいります。

旧離島さんばしエリアの賑わい創出とウォーターフロント空間の魅力創出を目的とした「やいま石垣さんばしマーケット」につきましては、常設化に向けて、創業支援機能を強化しながら開催を継続してまいります。

農業の振興につきましては、本市では、地理特性や豊かな自然環境を活かした品質の高い熱帯果樹や、牛肉、水産物等が生産されています。割高な輸送コストなど本市の不利性を踏まえつつ、関係機関とも連携を密にしなから、的確な販路先の開拓や効率的な販売促進活動に取り組み、石垣島産ブランドのより一層の構築へとつなげてまいります。

赤土防止対策につきましては、環境負荷の軽減や土づくりを主体に、さとうきび収穫後の土地利用の高度化を推進し、持続的に農地からの流出を防止する営農対策に取り組んでまいります。

観光の島における新たな挑戦として、排出された生ごみを小型プラントで液肥にし、それを農作物の生産に活用する地域循環実証である「小さな循環」に取り組む、資源循環ア

着実に縮めてきております。平成29年度も、授業の質の向上に向けた取組を着実に実施するとともに、中学校校区内の幼・小・中の連携強化や、個に応じたきめ細かな支援をする学校教育支援員の配置など、更なる学力の向上に取り組んでまいります。

また、中学校と併せ、小学校にも外国語学習支援員を派遣し、外国語授業の補助等を行い、小中学校教諭の指導力、授業力向上に取り組んでまいります。

情報教育につきましては、多様化・高度化する情報化社会へ適応できる人材育成のため、情報活用能力の育成の基盤となる情報モラル・情報セキュリティ教育の充実・強化を図ってまいります。

平成28年度は、延べ4,380名の児童生徒等に対し、スポーツや文化活動のための島外派遣費の助成を行い、全国大会を始め各大会で数々の優秀な成績が収められました。平成29年度も引き続き助成事業を行い、児童生徒の技術力向上と保護者の負担軽減を図ってまいります。

教育現場を担う人材の育成・定着は離島市町村における大きな課題の一つです。平成28年度から教員採用試験対策事業を実施しており、前年度より2名増の14人の合格者を輩出しました。平成29年度も引き続き、教員採用試験対策講座の内容を充実させ、平成28年度以上の合格者数の輩出を目指してまいります。

